

2010年11月19日

京都でクロスメディアをテーマにしたシンポジウムを開催。コーエー『維新の嵐 疾風龍馬伝』の北見健プロデューサーが、テレビドラマ『龍馬伝』、『坂の上の雲』の監督ならびにアニメ『刀語』のプロデューサーとともに登壇

KYOTO CMEX2010 実行委員会は、東映太秦映画村内中村座にて12月11日（土）16時より、クロスメディアをテーマとしたシンポジウムを下記の通り開催することを発表いたします。「歴史エンタテインメント新潮流」をテーマに、大河ドラマ『龍馬伝』監督の大友啓史氏、NHK スペシャルドラマ『坂の上の雲』監督の佐藤幹夫氏、コーエー『維新の嵐 疾風龍馬伝』プロデューサーの北見健氏、そしてアニメ『刀語』鳥羽洋典プロデューサーが一堂に会し、それぞれの作品に対する想いについて語ります。歴史をテーマに新たな切り口で臨むこれらの作品が如何に生まれたのか、興味深い内容となっております。多くの皆様のご来場をお待ち致しております。

記

クリエイターズサミット企画内容

正式名称：クリエイターズサミット：歴史エンタテインメント新潮流

日時：2010年12月11日（土）

時間：16：00-18：00（二部構成）

場所：東映太秦映画村内中村座

参加費：無料

主催：Kyoto Cross Media Experience 実行委員会

協力：太秦戦国祭り実行委員会

1. 目的

高度 ICT 時代を迎えた現在、メディアの受け手は、映画、ゲーム、ウェブ、小説、漫画とコンテンツを分け隔てることなく受け入れるだけに留まらず、自らの力で情報を発信する力すら持つようになっていきます。送り手と受け手が対等の立場で多様なメディアを使いながら物語を「語り合い」、相乗効果を生み出すクロスメディア文化の到来です。KYOTO Cross Media Experience はまさにこのクロスメディア文化を象徴する発信型イベントと言えるでしょう。このような現象をより根本的なところから把握するという主旨で選んだテーマが「歴史エンタテインメント新潮流」です。これまで多くの語り部が、歴史という民衆の間で共有された世界観を援用しつつ、自らの作家性を発揮してきたという背景がある

からです。また、撮影機器の小型化とデジタル化は、時代劇における絵作りを抜本的に変えました。本シンポジウムでは、歴史創作というジャンルにおいて一流のエンタテインメントをつくりあげた方々をお招きし、如何にメディアの特性と、時代劇という世界観を生かしながらメッセージを発したのかについて語っていただきます。

2. 形式

歴史創作を実践している各分野のゲストによる講演と、大学教員をモデレータとしたディスカッションの二部構成。

3. 構成

テーマ 「歴史エンタテインメント新潮流：不断なる挑戦で更に進化する歴史創作」

第一部 講演パート：90分 16：00～17：30

登壇者

イントロダクション：細井浩一（KYOTO Cross Media Experience 2010 実行委員会委員／立命館大学映像学部教授）

大友啓史氏 演出（大河ドラマ『龍馬伝』）

佐藤幹夫氏 演出（NHK スペシャルドラマ『坂の上の雲』）

北見 健氏 プロデューサー（『維新の嵐 疾風龍馬伝』、『信長の野望』シリーズ）

鳥羽 洋典氏 プロデューサー（『刀語』シリーズ）

-----休憩-----：10分

第二部 ディスカッションパート：20分 17：40～18：00

モデレータ：中村彰憲（立命館大学映像学部准教授／「太秦戦国祭り」実行委員長）

ディスカッサント：講演者のみなさま

＝登壇者プロフィール＝

佐藤幹夫（NHKドラマ番組部専任ディレクター）

昭和20年生まれ。東大文学部（ロシア文学）卒。NHKでドラマ番組を演出。

主な演出番組。大河ドラマ「太平記」「秀吉」。単発ドラマ「破獄」（芸術作品賞）同「海の群星（むりぶし）」（芸術作品賞）同「約束の旅」（文化庁芸術選奨新人賞）金曜時代劇「蝉しぐれ」（モンテカルロテレビ祭グランプリ、放送文化基金賞演出賞）単発ドラマ「私の愛したウルトラセブン」（放送文化基金賞）銀河テレビ小説「たけし君、ハイ！」単発ドラマ「聖徳太子」など多数。他に時代劇として藤沢周平原作「立花登青春手控え」平岩弓枝原作「御宿かわせみ」正月時代劇「五右衛門」などがある。

大友啓史（NHKドラマ番組部専任ディレクター）

1966年岩手県生まれ。慶應大学法学部卒業後、NHK入局。番組制作局ドラマ番組部でドラマ制作に携わる。97年米国ロサンゼルスに留学、ハリウッドの映像演出を学ぶ。「ちゅらさん」シリーズ等を担当、土曜ドラマ「ハゲタカ」の演出で、イタリア賞ほか国内外の賞を多数受賞。東宝配給で映画化もされ、監督を務める。スペシャルドラマ「白洲次郎」（脚本、演出）で芸術祭優秀賞、現在放送中の大河ドラマ「龍馬伝」ではチーフ演出を務める。

鳥羽洋典

株式会社アニプレックス／プロデューサー 1977年生まれ。スタジオジブリで『ハウルの動く城』の演出助手などを務めた後、2004年にアニプレックス入社。その後、『天元突破グレンラガン』『AngelBeats!』『刀語』『みつどもえ』などをプロデュース。

北見 健

1992年コーエー／プロデューサー（現コーエーテクモゲームス）入社。以降、プログラマーとして「信長の野望・天翔記」や「三國志V」など歴史を題材とした多くのゲーム開発に関わる。「太閤立志伝IV」で初めてプロデューサーを務め、近作では「維新の嵐 疾風龍馬伝」や「信長の野望・天道 パワーアップキット」のプロデュースを担当。

以上